テヘラン日本人学校の学校運営

前テヘラン日本人学校　校長
愛知県北名古屋市立師勝東小学校　校長　前　田　雅　彦

キーワード：学校運営，学校評価，授業づくり

1．本校の現況等

(1) 概況

イラン・イスラーム共和国はイスラームの教義が国家の法であり，それが外国人にも適用される。飲酒禁止や男女が一緒に活動することの制限，女性のスカーフ・コートの着用義務など生活上の規制は厳しい。また，「悪の枢軸国」「悪の中央銀行」とアメリカから厳しく批判されていたり，核の保有をめぐって国連でも話題に取り上げられることが多い。国内においては，政治や社会体制への不満は年々高まっており，民主化をめぐって様々な動きが見られる。しかし，石油や天然ガスなど地下資源が豊富なことから，アメリカとの貿易がない中で日本との交易は非常に深い。そのため，政情不安，将来への不透明化があるにもかかわらず在留邦人は，700名を数える。

(2) 学校運営上の課題，教育指導等の創意工夫等

① 保護者と日本人会から信頼される開かれた学校づくり

日本ではイランという国に対する不安が大きいので，保護者が安心して子どもを入れられる学校にすることが本校の最重点課題である。そのため，「保護者や日本人会から信頼される開かれた学校づくり」を進めてきた。具体的な方策として6年前から学校評価に取り組んできた。学校の現状と課題を常に明確にし，保護者と児童生徒から様々な観点で評価をしてもらい，その結果を公開するとともに事後の対応策を打ち出してきた。その結果，保護者と日本人会から非常に高い評価を得られるようになってきた。

② 「授業づくり」の充実

保護者に信頼される教育を推進するため，教科指導を重点課題に位置づけている。児童生徒が主体的に学ぶ「授業づくり」を推進するため，教員全員が研究授業を積極的に行い，『わかる・できる授業』の創造のため，校内研究会を充実させてきた。また，基礎基本の定着を重視した授業を展開するとともに，毎日15分間，国語，算数・数学，英会話の基礎学力をつけたり，基礎体力の向上を図る体つくりの「健康タイム」をしたりする「スラスラタイム」を設定している。その結果，児童生徒の学習意欲と学力向上とともに体力向上への意欲も高まっている。また，英語検定試験や漢字検定試験の合格率も高い。さらに，現地語である「ペルシャ語」の習得をめざして，本校独自の「ファルシー検定試験」も設けている。

健康タイム（走力向上）

(3) 学校運営委員会及び在外公館関係

学校運営委員会は非常に学校に協力的であり，学校が呼びかける様々な取り組みに積極的に参観，参加をしてもらっている。そのことが児童・生徒の励みになっている。また，日本人学校の良さを積極的に宣伝してもらえている。

２．在外教育施設の管理運営上の諸問題等

(1) 学校安全の強化

イランでは国民の政治や社会体制に対する不満は年々高まっており，ムハマド風刺画事件やガソリン配給制に対して，デモや抗議行動が近くでも起こった。そのため，学校安全を強化し，非常事態に備えた様々な準備を進めてきた。警備員の配置やフェンスの強化，校門の移設等の安全強化，防犯カメラの増設，警報装置の設置，非常用放送設備の増強，毎月の避難訓練などを図った。今後も，在外公館等と緊密に連携を図り，情報の収集と安全確保に努める必要がある。

(2) イラン教育省との連携の難しさ

外国人学校に対してイラン教育省から様々な制限や対応を求められる。現地人の訪問にはイラン教育省の許可が必要である。週に 2 時間のペルシャ語指導を求められている。それは困難なので，週に 1 時間を確保しながらイラン教育省の反感を得ないように工夫している。特に重要なのは入学問題である。イラン国籍をもつ児童生徒の入学はイラン教育省の許可が必要である。ところが，教育省の担当者が替われば方針も変わってしまうことがよくある。そのため，入学相談にはこのような状況を踏まえたきめの細かい指導と対応が必要である。7 年前にはイラン国籍をもつ児童の入学に関して，学校内部と学校運営委員会，PTA で激しい議論がかわされた。学校の対応の拙さから大きな混乱が生じ，学校に対する信頼を大きく損ねた。現在は，入学問題に関して学校運営委員会も PTA も十分納得できる対応ができているが，今後もイラン教育省の状況をみながら慎重で的確な判断が必要となる。

(3) 現地理解の難しさ

文化や習慣の違いから，現地人を好きになれなかったり，偏見をもったりすることが少なくない。しかし，現地の人と深くつき合うと，現地の文化や人の価値観や生き方の良さがよくみえてくる。現地の文化や現地人を好きになれる取り組みが必要である。また，現地理解教育を進めることにより，日本の文化や日本人の良さと課題がわかるような取り組みを進めることが重要である。

現地理解（自動車工場見学）

３．在外教育施設における今後の教育指導のあり方

日本人学校で学習している児童生徒は学習意欲が高く，少人数も功を奏して，目に見えて学力が向上している。今後の課題は，日本国内の新学習指導要領にマッチした本校の取り組みの改善にあると考える。